企業メセナ最前線

南海電鉄会長兼CEO 山中 諄氏に聞く

運輸、不動産、流通、レジャー・サービスなど、63社・従業員約7,800人の南海グループの中核である南海電気鉄道株式会社（資本金637億円）。平成22年に創業125年を迎える同社のトップ・山中 諄代表取締役会長兼CEOに、同社のメセナ・社会貢献活動について聞いた。

山中 諄（やまなか まこと）氏
南海電気鉄道株式会社代表取締役会長兼CEO
昭和18年三重県出身、同40年立命館大学卒、南海電鉄入社。平成13年同社代表取締役社長、同19年より現職。(社)関西経済同友会代表幹事（平成21年～）、ミナミまち育てネットワーク会長（平成20年～）、立命館大学交友会会長（平成16年～）など要職兼務。

CSRを柱に沿線地域の活性化を

●御社での社会貢献活動やメセナ活動をどのようにお考えですか。

私は、現在南海グループが取り組む3か年経営計画の策定時に、CEOとしてCSR（企業の社会的責任）をその柱に据えました。もとより鉄道事業そのものが社会貢献に直結していますから、私たちの沿線地域に対するCSRの意識はとても強い。そこで私たちは、今後さらに沿線地域の発展に貢献すべきだと考え、メセナ活動も積極的に行っています。

●社会貢献活動の具体例をお聞かせください。

3か年経営計画の基本方針のひとつに、環境保全への取組み強化をあげています。鉄道そのものが環境にやさしいわけですが、当社を含めたグループ主要3社でCO_2を3%削減する目標に取り組んでいます。また、護摩壇山（奈良県）に自社所有する525haの『なんかいの森』の育成や大阪府堺市臨海地域の『共生の森』など、沿線地域での緑化・植林活動も支援しています。私を含め当社の役員・社員で『なんかいの森』で間伐作業をボランティアで行っています。さらに、省エネ車両の導入やターミナルビルでの省エネ対策にも力を入れています。

なんかいの森（前列左から5人目が山中氏）

●メセナ活動はどのようなことをされていますか。

大阪フィルハーモニー交響楽団への支援として、1991年に大阪市西成区の当社所有地内に専用練習場『大阪フィルハーモニー会館』を提供し、大フィルと協働で『南海コンサート』を沿線のホールで毎年開催しています。また、沿線の大学と提携して一般公開の『沿線フォーラム』を年2回のペースで開催。その他、指定管理者として運営している大阪府立体育会舘で沿線のバスケットボールやバレーボールなどのプロスポーツチームと協働し、子どもたちを対象にしたスポーツ大会や教室を開催しています。

●ミナミのまちづくりについてどのようにお考えですか。

当社の沿線文化も従来の伝統的な要素に加え、関西国際空港の開港や高野山の世界遺産登録、大阪湾岸部でのパネルベイなど、近年新たなイメージが備わってきたと思います。そして『なんばパークス』の開業は、難波・ミナミのイメージを大きく変えました。かつては場外馬券売場しかなく平日は閑散としていたのですが、いまは一変して家族連れや年配の方々、カップルなどで賑わっています。

そうした人たちは、高価な買いものだけが目当てではありません。おにぎりを買ってパークスでひと休みしたり、時間つぶしにぶらぶらしている人も多い。私はそれこそが本来のまちの姿だと思います。経済合理性を追求するビルだらけのまちは落ち着かない。その意味で、まちなかに緑をつくることはとても大切ですね。また、昨年は難波駅構内の広場を『なんばガレリア』に改装し、念願の屋根のある回遊空間をつくりました。

繁華街の顔をもつミナミは、一方で歴史文化の薫りもある。まちづくりには、そうした個性を活かすべきだと考えます。

なんばパークス

なんばガレリア

高野山への山岳観光列車『天空（てんくう）』